

設定来のパフォーマンスの振り返り

ROBOPROファンド 追加型投信/内外/資産複合

- ▶ 平素は「ROBOPROファンド」(以下当ファンド)に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当ファンドは、株式会社FOLIO(以下FOLIO)から投資対象資産の配分比率に関する助言を受けています。
- ▶ 本レポートでは、設定日から足元までの市場環境やパフォーマンスの振り返り、ROBOPROファンドの強みについてご説明させていただきます。

設定来の運用から見えるROBOPROファンドの特徴

底堅く安定的なパフォーマンス

2023年12月28日に運用を開始した当ファンドの基準価額は8月6日時点で10,832円となりました。6月19日に分配金100円(1万口当たり、税引前)をお支払いしており、8月6日時点の分配金再投資基準価額は10,926円でした。

下記のように底堅く安定的なパフォーマンスを背景に、当ファンドには資金の流入傾向が継続しており、純資産総額は8月6日時点で126億円を超えています(図表1)。

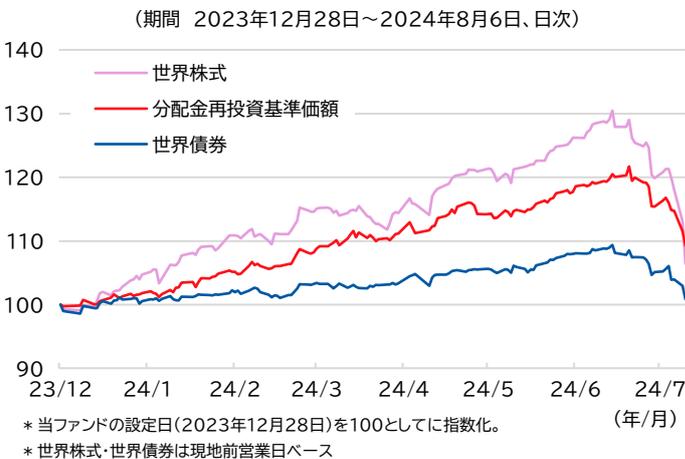
設定来のリターン(年率)は+15.7%となった一方、リスク(年率)は10.0%と獲得したリターンに比べて相対的に小さなものとなっています。当ファンドのリスク水準は世界債券に近い水準に抑制されている一方、リターンは世界株式に近い水準となっています。リターンをリスクで割った投資効率を表す指標は、当ファンド(1.56)の方が世界株式(1.04)より高く、当ファンドがリスクを抑制しながら効率よくリターンを確保していることが分かります(図表2、3)。

また、足元、主要国の株式市場が大きく下落したことから、同期間の当ファンドの最大下落率は▲10.2%となりましたが、世界株式(▲18.5%)に比べれば、6割弱の下落率に留まっています。機動的な資産配分により価格下落リスクを抑制する当ファンドの運用戦略の特徴がうかがわれる結果となっています(図表2、3)。

図表1 設定来の基準価額の推移



図表2 当ファンドと主要株価指数の推移



図表3 当ファンドと主要株価指数のリスク・リターン

	当ファンド (分配金再投資 基準価額)	世界株式	世界債券
年率リターン	15.7%	16.7%	4.1%
年率リスク	10.0%	16.2%	8.0%
リターン/リスク	1.56	1.04	0.51
最大下落率	-10.2%	-18.5%	-7.8%

* 世界株式:MSCI ACWI Gross Return JPY Index
* 世界債券:FTSE World Government Bond Index JPY

(図表2、3の出所)Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

ROBOPROファンドの強み - AI予測に基づき下落幅を抑制した局面 -

以下、AI予測を活用した機動的な資産配分の変更が奏功した2つの局面をご紹介します。

① 3月下旬～4月下旬、世界の株式市場が調整局面を迎えるなか、ROBOPROファンドは堅調に推移

3月下旬以降、米国における根強いインフレへの懸念を背景に米連邦準備制度理事会(FRB)に対する市場参加者の早期利下げ期待が後退したことや、中東における地政学的リスクの高まりなどを受けて、主要株価指数は4月下旬にかけて大きく下落しました。

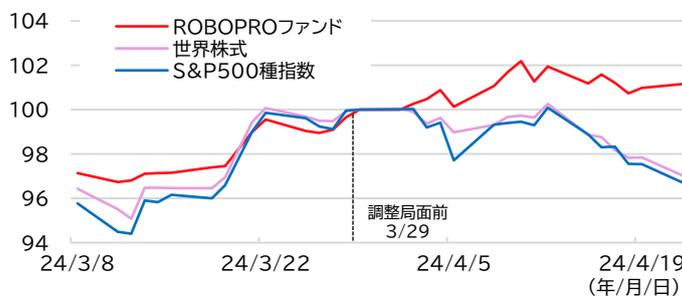
一方、ROBOPROファンドは、[金への資産配分を高め](#)[ていた](#)ことや、複数資産にバランスよく分散していたこと等により、代表的な株価指数に比べて相対的に堅調に推移しました(図表4、5)。

② 7月11日以降、米国の主要株価指数が調整色を強めるなか、ROBOPROファンドは相対的に堅調さを維持

米国株式市場では、これまで相場上昇を牽引してきた半導体関連株が軟調な推移となっており、米国の主要株価指数は7月11日に直近高値を付けて以降、調整色を強めました。

こうしたなか、ROBOPROファンドは、長期金利の低下を背景に価格が上昇した[不動産に対する資産配分が高位であった](#)ことなどが奏功し、主要株価指数に対して相対的に安定したパフォーマンスとなりました(図表6、7)。

図表4 調整局面のROBOPROファンドと主要株価指数 ①
(期間 2024年3月8日～2024年4月22日、日次)



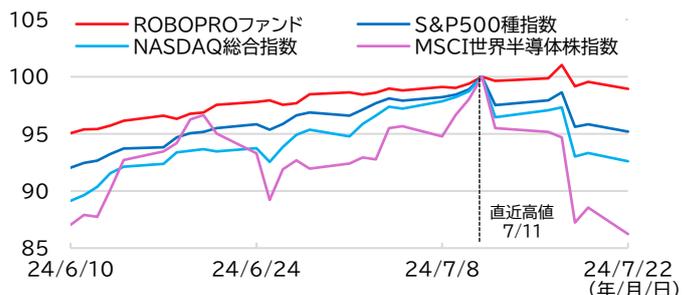
* 2024/3/29(世界株式指数の4月調整局面前の高値日)を100として指数化
* 世界株式:世界株式:MSCI ACWI Gross Return JPY Index
* 株価指数は配当込み指数、円換算ベース、現地基準(1営業日前)

図表5 各資産の組入比率の変化

	米国株式	先進国株式(除く米国)	新興国株式	米国債券	ハイイールド債券	新興国債券	不動産	金
3月8日	0.0%	0.0%	28.7%	26.3%	7.2%	2.7%	8.1%	26.9%
4月8日	5.3%	0.0%	16.2%	18.2%	4.1%	1.5%	26.4%	28.2%
変化幅	5.3%	0.0%	-12.6%	-8.1%	-3.2%	-1.2%	18.3%	1.4%

* 組入比率はFOLIOからの助言ベース
* 組入比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

図表6 調整局面のROBOPROファンドと主要株価指数 ②
(期間 2024年6月10日～2024年7月22日、日次)



* 各指数が直近高値を付けた7月11日を100として指数化
* ROBOPROファンドは分配金再投資基準価額
* 株価指数は配当込み指数、円換算ベース、現地基準(1営業日前)

図表7 各資産の組入比率の変化

	米国株式	先進国株式(除く米国)	新興国株式	米国債券	ハイイールド債券	新興国債券	不動産	金
6月10日	0.0%	0.0%	0.0%	41.0%	0.0%	0.0%	35.6%	23.4%
7月8日	21.6%	0.0%	0.5%	23.3%	0.0%	0.0%	28.3%	26.2%
変化幅	21.6%	0.0%	0.5%	-17.7%	0.0%	0.0%	-7.3%	2.9%

* 組入比率はFOLIOからの助言ベース
* 組入比率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

* 上記は各資産の組入比率の変化の参考として示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

(図表4、6の出所)Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

ROBOPROファンドの安定感の源 – 機動的なリバランス –

金と不動産を重視しつつ、積極的なリバランスを継続中

ROBOPROファンドは、原則として毎月リバランスを行っており、多種多様で大量の経済データやマーケットデータを分析するAI予測を活用して、機動的に8種類の投資対象への資産配分を変更しています(図表8)。

図表8の設定来の資産配分の推移をみると、金を相対的に高位で組み入れていることが、この間のポートフォリオの特徴の一つとなっています。また、不動産(米国不動産)についても4月以降、比較的高位に組み入れていることも特徴的な資産配分と言えます。

図表9はファンド設定以降の投資対象資産の騰落率を示したものです。8資産の中では、ROBOPROファンドが相対的に高位の組入れを続けている金が最も大きな上昇を見せています。また、不動産(米国不動産)の設定来の騰落率は2%程度の上昇ですが、組入比率を引き上げた4月末からの上昇率は約13%となっており、AI予測を活用した当ファンドの強みが現れたものとみられます。

金と株価とROBOPROファンドとの関係を考える

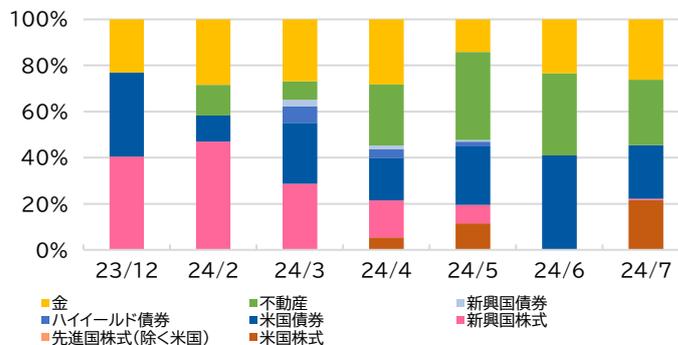
図表10は金とS&P500種指数および世界株指数の推移をグラフにしたものです。いずれもこの期間は上昇基調となっており、図表9の騰落率をみても、米国株式と金は堅調に推移したことが分かります。図表10のグラフでは、株価指数と金の価格推移は相互にクロスするような値動きをする傾向がうかがわれます。これは、株式と金を上手く組み合わせることで、リスクを抑制できる可能性があることを示唆しています。

ROBOPROファンドでは、上記のように値動きが異なる傾向がある資産や、リスク(価格変動の振れ)の大きさの異なる資産を組み合わせることなどにより、ポートフォリオの価格変動リスクを抑制しながら、安定的にリターン確保を狙うという資産配分を行ってきています。

ROBOPROファンドは、こうした資産配分をAI予測を活用することで、機動的に行っていることが大きな特徴となっており、設定来、約半年余りの運用実績でもそうした特徴が十分に発揮されていることが見てとれます。足元、相場環境は不透明感を増しており、マーケットの変動は大きくなっていますが、今後もROBOPROファンドの投資戦略が効果を発揮することが期待されます。

図表8 リバランス時点の資産配分

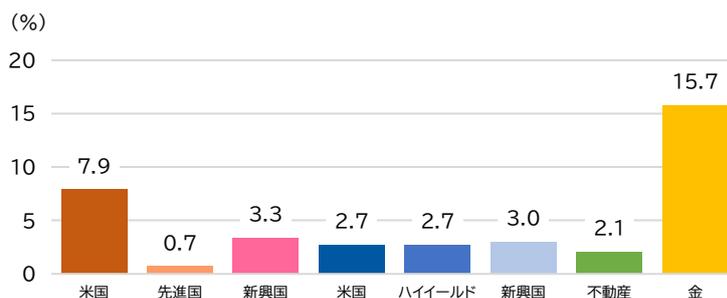
(期間 2023年12月~2024年7月、月次)



* 組入比率はFOLIOからの助言ベース

図表9 各資産の騰落率

(期間 2023年12月27日~2024年8月5日、日次)



* 組入比率はFOLIOからの助言ベース

- * 米国株式: バンガード・トータル・ストック・マーケットETF
- * 先進国株式: バンガードFTSEディベロップド・マーケットETF (米国は含まれません)
- * 新興国株式: バンガードFTSE エマージング・マーケットETF
- * 米国債券: バンガード・トータル債券市場ETF
- * ハイイールド債券: iシェアーズiBoxxハイイールド社債ETF
- * 新米国債券: iシェアーズJPMオルガン・ミドル建てエマージング・マーケット債券ETF
- * 不動産: iシェアーズ米国不動産ETF
- * 金: SPDR Gold MiniShares Trust

図表10 金と主要株価指数の推移

(期間 2023年12月28日~2024年8月6日、日次)



* 世界株式: MSCI ACWI Gross Total Return JPY Index

(出所) Bloombergデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

販売会社一覧

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	日本証券業協会	加入協会		
			一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社SBIネオトレード証券	関東財務局長(金商)第8号	○		○	
大熊本証券株式会社	九州財務局長(金商)第1号	○			
(登録金融機関)					
株式会社愛媛銀行	四国財務局長(登金)第6号	○			
株式会社富山第一銀行	北陸財務局長(登金)第7号	○			
株式会社広島銀行	中国財務局長(登金)第5号	○		○	

<本資料で使用しているインデックス> MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックスはMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています

<本資料に関するお問合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)

留意事項

ROBO PORT

SBI岡三アセットマネジメントについて

商号：SBI岡三アセットマネジメント株式会社

SBI岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長(金商)第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

投資リスク

- 投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。ファンドは、国内外の株式、国内外の債券、国内外の不動産投資信託証券、コモディティ等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
- ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「金利変動リスク」、「不動産投資信託証券のリスク(価格変動リスク、分配金(配当金)減少リスク)」、「コモディティのリスク」があります。その他の変動要因としては、「信用リスク」、「流動性リスク」、「カウンターリスク」、「不動産投資信託証券のその他のリスク(信用リスク、業績悪化リスク、自然災害・環境問題等のリスク、法律改正・税制の変更等によるリスク、上場廃止リスク、流動性リスク)」があります。

※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさかった場合も同様です。
- ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額に影響を受けることがあります。
- 取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

お客様にご負担いただく費用

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
 - 購入時手数料：購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%)
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
 - 換金手数料：ありません。
 - 信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
 - 運用管理費用(信託報酬)：純資産総額×年率1.562%(税抜1.42%)
- その他費用・手数料
 - 監査費用：純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用等を投資信託財産でご負担いただきます。なお、マザーファンドの当該費用につきましては、間接的にご負担いただきます。(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。投資するETF等には別途費用がかかります。これらの投資に伴う費用は投資するETF等、保有期間、配分比率等に応じて異なりますので、事前に合計金額や上限額を示すことができません。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。